

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 75

2020.9.20 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第75回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『林 長三郎と中央線鳥居松駅開設請願運動』



講師：塚田 忠雄 氏

会場風景

2020年（令和2年）6月27日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ「林 長三郎と中央線鳥居松駅開設請願運動」で、塚田忠雄氏（本会副会長、春日井郷土史研究会会員）に発表いただきました。

林 克己氏（現在春日井市市会議員）より、代々引き継いでいる先祖の資料があるので調べてまとめてもらえないだろうかと当会に依頼をされました。

資料は、歌集「旅乃友」と題した59頁の林 長十郎自身が生涯のまとめとして作られた本でした。本の扉に「長年六十五歳」の座した写真が掲載され「長年」と自らの雅号が記された昭和10年5月発行のものでした。持ち主は克己氏の父親で元春日井市議会議員林久男氏（故人）所蔵の貴重な歴史資料でした。

林 長十郎は、地域振興の為に、鳥居松地域に鉄道の駅を誘致することに請願運動の中心となり奔走し、地域発展に大きな功績を残した人物でした。

参加者は19名でした。新型コロナウイルスの流行拡大の影響もあって様々な規制のある中で無事実施することができました。

《講演要旨》

「林長三郎の鳥居松駅開設運動」と題して塚田忠雄が講演した。第74回は3月1日に開催したが、翌4月、5月は新型コロナで施設利用禁止となり、解禁は6月となったが、第75回は月末まで遅らせて開くこととなった。講師はフェースシールドを着用し、参加者はマスクを着けて間隔をあけて座り、聴くことになった。参加者は19名であった。春日井教育委員会発行「わたしたちのまち 春日井」は全小学4年生に配布され、この社会科副読本（郷土教育読本）で「6 きょう土の発展につくす」で「教育や文化の発展につくした人々」に足立聡、林長三郎、河田悦治郎、安藤直太朗の4人を取り上げている。春日井の子どもたちが「郷土の偉人」として学ぶこの4人について大人も知っておくべきと人物像を掘り下げてみた。今回は林長三郎を紹介す日、今の上条で生まれた。青年期は父の農業を助け、中年で村の土木治水工事を職とした。その長三郎は中央線の鳥居松駅開駅運動の中心となって取り組んだ。請願運動は大正9年（1921）頃から始まった。

I. 林長三郎は明治3年（1870）旧8月2日、父武兵衛と母きと子の長男として今の上条で生まれた。青年期は父の農業を助け、中年で村の土木治水工事を職とした。その長三郎は中央線の鳥居松駅開駅運動の中心となって取り組んだ。請願運動は大正9年（1921）頃から始まった。鳥居松の林釣平、長縄庄右衛門、伊藤十字らが発起に加わり、林長三郎はリーダーだった。本格的な請願運動は大正14年7月の鉄道停車場新設期成同盟をつくり、署名の先頭にたったのが代表の林長三郎であった。昭和2年（1927）12月に開駅にこぎつけた。請願運動の概要は、伊藤浩氏が「郷土史かすがい」55号に「春日井駅誕生秘話」と題している。同デジタル版では「請願駅 鳥居松」。「停車場新設の経過概要」がまとめられている。明治33年7月25日付官報に「本月25日より中央線名古屋多治見間運転営業を開始する」と告示されたが、市内停車場は勝川と高蔵寺の2つであった。当時は駅ができることに反対する空気があったが、年月を経て、駅の重要性や経済効果が認識され、中間地に新駅を設置する運動が起きた。機運は設置請願に変わった。

II. 歌集「旅之友」に鳥居松駅開駅と駅前の大師立像の建立について歌で喜びが綴られている。



(1)「旅之友」は長三郎が還暦記念に歌集に取り組んだものだが、実際には、写真にあるように「長年六十五歳」とあるように遅れての発行だった。「長年」は号で、年齢は数え年である。詠歌は当日映

写したスライドの4枚を再掲する。①開駅の歌、②立像大師の着手、③大師堂新築の歌、④御大師様開眼の歌である。堀尾茂助泰彬が所蔵した短冊2枚をこの場で紹介させていただく。

昭和2年2月16日鳥居松駅開駅

- 天地に喜びの声みちわたりにきはひ
更かす鳥居松駅
- すみ渡るさやけき月をなかめつつ
心うれしくふかしつるかな
- 国の為人の為なり鳥居松駅のりをり
で来し今日の嬉しさ
(ひらけし駅)・日に月に駅の栄えを見る毎に
老て行身もたのしかりけり
- 喜こひて開けし駅につとひ来し老ひも
若も通ひこそすれ

11

昭和7年3月15日開眼式執行師山
老師初拾五名の僧御経

- (御大師様)秀てたるこゑほからかに
老僧のよめる御経に大師眼をあく
- うつかねのしらへ高くもなり合ひて大師のまへにつとふ諸人
- ありがたや慈悲たれたまう御大師の御像高くおかむ今日かな
- やすらかに守りたまへと大師の御前つとふ諸人
- ありがたや大師はここに幾千代を
御像ととめておわします
- 夜もひるもおたちます大師様駅につかふる人を守りて
- うちつれて家内諸共駅まへの大師おろかも今日の嬉しさ
- 夜もひるも眠らし世をはなめつつ人のさかをはすくいたまへり
- 昼も夜も夏の暑さも雪の夜もかさはなくとも杖はたつさふ

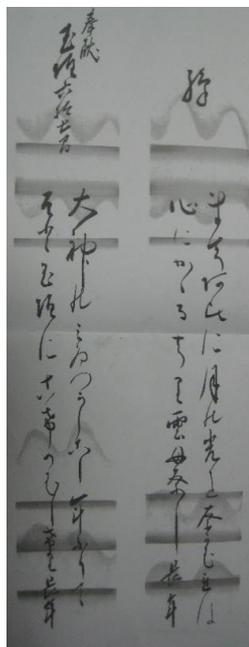
13

昭和7年春 立像大師工事に着手

(いよいよ本日より工事に着手)P42

- すさましくねりこむ石はみな法の六字御名のくどくなりけり
(皆小石は南阿弥陀仏記入ありし)
- ありがたや御砂にセメントとかきませて堅礎つみし今日かな
- 諸共に心あわせて御法かき今日のよき日に大師作くらん
(外ノ原大谷山へ岩石を引に行く)
- 軽くと山をいて来て大岩も大師のまへにつかふる
- 諸人のちからこもりて庭石の重きもかるし山坂の道
(工事竣工)
- 百万小石あつめて御像を作りあげたることの嬉しさ
- かしこくも高野の山を出てまして大師はここにうつりましたる

9



ついでながら、堀尾家には、極細字画が2幅、長三郎が贈っていた。昭和11年、六十八歳の謹写とある。友人や寺院に分布したことも書かれている。交友関係がわかる。

長三郎は文化人であった。

(2) 歌集の長

三郎の写真は貴重な肖像写真である。

その写真には一幅の掛け軸が背景に写る。「鳥居松開

駅ニ付床次竹二郎閣下 下書」とあり軸書は「至誠能化」と書かれている。床次(とこなみ)竹二郎(慶應2. 12-昭和12. 9)の鉄道大臣は昭和6年12月から昭和7年5月で、鳥居松

駅前の大師立像は、その在職期間中に工事が着手されたとわかる。4月の完成の翌月に職を解いている。床次は第29代犬養内閣の閣僚で内閣閣僚一同の写真では犬養首相の隣に座っている。その写真をスライドで紹介した。

「至誠能化」(しせいのうげ)の書は自慢の一幅であったに違いない。「真心を尽くせばよく教化させられる」(認められる)との言葉は一生の宝であったに

違いない。床次は昭和10年9月8日に68歳で亡くなった。

(3) 林長三郎は、瑞雲寺住職を50年間も務めた**誘法大僧正の門人**。昭和6年8月8日「祝師山米寿一首」が「歌之友」に載る。「誘法さん」という小冊子には鳥居松開駅10周年記念祝賀で漢詩を読んでいる。誘法は1844年生まれ、昭和18年3月28日に他界した。「天保の文化人」と呼ばれ、学識の高い、まさに「文化人」であった。その誘法老師の「門人」と長三郎は自ら名乗っている。「歌之友」には「理趣分兼普門品観音名號筆頭巧／細字蜜々日無倦数幅記終経達し翁」の詩が短冊となる写真が載っている。

また同短冊の写真には密蔵院圓澄師の雪中花の短冊も載っている。誘法の門人はまさに至宝。

**昭和8年2月鳥居松駅前
弘法大師御堂新築して**

- ・ あたらしく大師の御堂くみあけて
御仏むかふ今日の嬉しさ
- ・ 手をきよめ口をそそける手水鉢いく
千代ふるともくちせさりけり
- ・ おのか身をかへりみること思うかな
人より宝得むとおもはず
- ・ 多からぬ蓄へをいて御仏の事に
捧くるけふの嬉しさ
- ・ かきりなきめくみの露にうるほひて
思はずぬらす我たもとかな

15

Ⅲ. 林長三郎は、信仰心の篤い人だった。

①鳥居松駅の開駅の後、鳥居松駅前に大師立像をつくった。昭和7年のことだった。御像をつくにあたって、百万小石を外之原大谷山から集めて、小石には、南無阿弥陀仏と法の六字御名を名號(みょうごう)という。長友は「六字名號」と「南無阿弥陀佛」と題した歌を短冊に書いている。後者の歌は無筆墨の極細文字

で書かれたもののような。これが後日、昭和11年の極細文字像の掛け軸につながると思う。②和爾良神社の67間の外玉垣を奉獻した歌の短冊が堀尾家に残されている。この玉垣は長三郎一人の奉納である。通常は寄附者の名前が刻まれるが、それをしなかった。③和爾良神社拝殿前に狛犬を寄進④泰岳寺の墓地内に昭和10年建立の長十郎の巡拝碑が建つ。明治27年の西国、昭和8年の四国、昭和9年の秩父・坂東の巡拝記念碑だ。



Ⅳ. 昭和5年5月の**北海道視察の歌**が「旅之友」に載っている。「旅之友」への寄稿として北海道八雲の旧友**梅村多十郎**ほか3名の投稿があるが、号で載せられ、本名はわからない。八雲ではなく、北海道からの投稿とされているのが13首、9名いる。この中に、**河原友二**(旧姓伊藤馬治郎)がいるはずだが、俳号のみではいまとっては確認がとれない。伊藤馬治郎は今の春日井駅の南の河原家に養子に入った。林長三郎の居宅からわずか百メートルしか離れていない。鶏売買をしていたので知らぬはずがない。

Ⅴ. **林長三郎の業績**は鳥居松駅の開設運動だけではない。村中治彦氏(前郷土史研究会会長)が商工会議所ニュースに書いていることを紹介する。明治19年に、県から**蚕業振興**にと各戸3本の桑の木を配布し、苗木植樹を奨励した。父と共に、農家の副業に有効であると、村内の



農家の勧誘に努めた。大正 3 年には和爾良養蚕組合を設立。新しい事業にも積極的に取り組み、明治 21 年に名古屋電灯会社を設立した。大正 9 年 3 月 15 日には、鳥居松一円に電灯の引き込みを行った。同年 7 月に村会議員に初当選。昭和 20 年逝去、享年 75 歳。春日井駅に改称したのは、長三郎の死後の昭和 21 年 5 月 1 日だった。昭和 18 年に町村合併し、春日井市が誕生し、駅名変更はこれに重なる。

昭和 17 年の市制準備委員会のメンバーには鳥居松村長梅村義一、篠木村長には藤田三郎が入っていた。和爾良村は小野村と合併して鳥居松村になった。林長三郎の時代は去ったが、「至誠能化」を座右の銘として生涯を誇って逝ったに違いない。「六字名號」を唱え乍ら逝った。
(記録：塚田忠雄)

〈会報編集後記〉 コロナ以前の日常には戻れるのか？

『会報 75』の編集作業もコロナ禍の中、毎日報道される感染状況の棒グラフに一喜一憂しながら新しい日常生活を続ける毎日です。

いつもフォーラムの記録を担当していただいている塚田氏のパソコンの不具合というアクシデントも生じて『会報』のお届けが大変遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。

昨今、「今までに経験したことのない事態」「パクスなき世界」という言葉が日常化しています。予定調和の世界観が通用しない、自然界も人間社会も色々な意味で転換期を迎えていることを予感させます。

冷静に考えてみれば、長い人類の歴史で人間の営みや、取り巻く環境が人間の考える計算どおり、計画どおりに推移してきたことは希でした。毎日が経験したことのない日常の連続であったことを考えれば、「今さら」という感じがしないでもないのですが、自然界とその中で活動する人間社会の難しさを今ほど感じさせる時はないように思います。

科学技術がどれだけ進歩発展しても人知では予測不可能な出来事はこれからも避けられないと考えるのが妥当かもしれません。

経営学の神と言われた.P.F ドラッカーの言で、「ボートが静かな湖面に浮かんでいるときに、ボートに穴があいたときのことを考えておけ」とは、危機管理の至言です。不確実、想定外の社会を「強かに」「しなやかに」生き抜いて行く知恵と方法を身に付けておかなければならないと感ずる今日この頃です。いづれにしてもこの度の出来事は、歴史的な、出来事であり今までの日常の行動が経済、政治、文化全てにおいての行動様式を変換してゆかねばならないことを余儀なくされております。歴史はその都度大きな社会の転換をすることによって乗り切ってきたことを考えれば、今までの日常行動様式が大きく変わってゆくことを覚悟しなければならぬと思っています。
(文責：河地 清)

第76回ふるさと春日井学研究フォーラム(案内)



大会前の練習風景

『書のまち春日井・県下児童・生徒席上揮毫大会 80周年記念』のポスター

Forum テーマ：

ふるさと春日井の教育文化遺産

—県下児童生徒席上揮毫大会について—

—昭和19年空襲警報下でも行われたのは何故か?—

日 時：令和2年9月20日(日) 午後1時30分～4時

場 所：市民活動支援センター(ささえ愛センター)2階

TEL：0568-56-1943(〒486-0837春日井市春見町3番地)

講 師：河地 清 氏(「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長)

※定員30名(会員以外の方は、資料代500円を徴収させていただきます。)

※コロナウイルスの感染状況によっては、日程変更もありますのでご承知置き願います。

(検温・マスク着用・消毒・名簿記入をお願いします。)

事務局：〒486-0825 春日井市中央通り2-9 TEL・FAX0568-82-5973

会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学

検 索